

いしかれん だより

第42号

2008. 3

石川県精神障害者
家族会連合会
〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6番地
石川県こころの健康センター内
TEL (076) 238-5761
FAX (076) 238-5762

巻頭言

『みんなねっと』の活動

— 家族の状況を変えるために —

特定非営利活動法人 全国精神保健福祉会連合会

理事長 川崎 洋子



昨年の5月に「発
会式」を行い、全国
の家族の皆様のご支
援をいただき、会員
構成は45の都道府
県連が正会員、約
13,000人の方々が賛
助会員として、ご参

加いただいております。

すでに、機関誌等でお知らせいたしておりますが、本会の活動には4つの柱をたてました。1. 相談 2. 啓発 3. 国や行政への働きかけ 4. 月刊「みんなねっと」の発行です。19年度の活動といたしましては、電話相談を開始、また、岡山大会、ブロック研修会に参加し、東京では「みんなねっとフォーラム」を開催し、多くの方々に精神障がいへの理解を深めていただきました。昨年暮れには要望書を作成し、自民党、公明党に提出しております。野党各政党への提出も準備をすすめております。また、月刊「みんなねっと」を毎月発行し、会員のお手元にお届けしております。20年度に向けましても、この活動を継続し、あらたな課題に取り組んでいく所存でおります。

精神障がい者とその家族をとりまく現状

は、いま、重要な時期にあると考えます。社会の変化に伴い、法律も変わり、施策も増えてきております。しかし、家族のおかれている状況は変わってきたでしょうか。残念ながら何も変わっていないのが現状です。

精神的にも経済的にも親から自立した生活ができている当事者の方は、たいへん少数です。大多数の当事者の方の治療と生活は家族によって支えられています。この状況の中で、家族会でずっと言われ続けられているテーマが、親なきあとのことです。

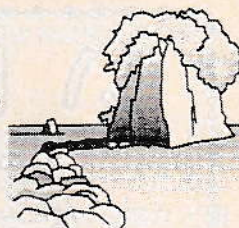
これは家族だけの問題とせず、社会で取り組んでいくような体制づくりが必要です。

地域社会を精神障がい者と家族が住みやすくするためには、地域生活支援体制づくりが必要とされています。精神保健福祉関係者（精神科医師、看護師、保健師、精神保健福祉士）や、施設職員、地域の方々など、多様な方々の支援をいただき、精神障がい者が親なきあとも障がいをもちながら、住み慣れた地域で暮らせるような社会の実現を、「みんなねっと」は大きな目標としています。この実現には時間がかかります。焦らず、しかし忍耐強く目標に向かって皆様と一緒に歩んでいきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

単会活動報告

むつみ会

むつみ会は、珠洲市・内浦町の会員で活動しています。



むつみ会ではこんなことをしています

家庭間の親睦
相談研修
活動

ワークショップすず
の運営のお手伝い

精神障害者の施設・
制度の充実に
向けての活動

むつみ会だよりを
発行しています

＊和やかに集いましょうよ＊

作詞 珠洲市 女性会員

一 泣いたって 始まらない
悔やんで見ても仕方がない
同じ悩みを持つ者同志
広き心の師とめぐりあい
時には笑顔も覗く
むつみ会
和やかに集いましょうよ

二 悩みを悩みと 思わずに
一人一人は もろくとも
皆で大きな愛和となって
未来に向かって進んでいこう
集う我が胸を張る
家族会
心を開いて語らいましょうよ

三 人の上に人はなし
人の下にも人はなし
たとえ光が鈍くとも
正しいケアを身に付けて
清く澄んだ玉とする
むつみ会
自らを磨きましょうよ

会員、ワークショップすず通所者からのメッセージ

- ワークショップへ通所しだしてから、人生が変わった。同じ病気を持つ者同士で助け合い、励まし合い作業に取り組んでいる。その中から何かを見出せば、人生が開けてくるだろう。家の中に閉じこもっている時はゆううつになり、よくない面が出てくる。話し合える仲間がいる事は大切だと思える。これからもワークショップでの作業を通して社会復帰に向け取り組んで行きたい。 本人（男性）33歳
- むつみ会会員や色々な人の苦勞の末、遂に「ワークショップすず」が新設され、子供達同士の逢える日が多くなりました。本人は楽しく仕事しながら、今は日増に良くなりました。私達も今までより安心な気持ちになりました。 父87歳・母72歳
- 近所の人に隠すようにしていると、自分のストレスがたまり、良くないとわかっていても相談出来る人はいませんでした。むつみ会に参加したことで、他の会員や講師の意見を聞いたり、私の話を聞いてもらえることが出来るようになりました。 母55歳
- 専門医を招いてのむつみ会の懇談会に参加して、精神障害の病気は、必ず立ち直ると信じ、まずは親の深い理解が何より大切だと思いました。そして又、再発しない様に注意深く見守る事が大切だと思います。これからも出来る限り幅広く家族会の方々と話し合って行きたいと思っています。まだまだ勉強せねばいけないと思っています。 父63歳

むつみ会事務局

（石川県能登北部保健所珠洲センター）

珠洲市宝立町鵜島ハ字124 TEL (0768) 84-1511番

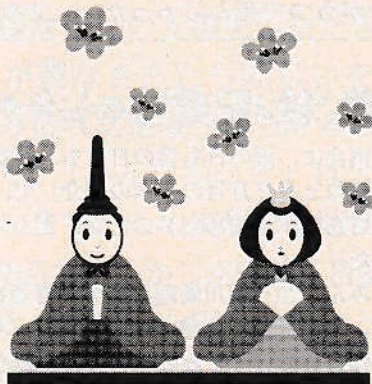
家族会「みそぎ会」会員

鹿島 弘子

先般、家庭内暴力による痛ましい事件があり、親御さんの心情を思うと辛くやりきれない日々の連続であった事かと推察する。警察にも連絡し、近所の人も何か割れる音を聞いていたとニュースでは伝えていたが、この時点で何らかの対処の方法がなかったのだろうか。よく言われるように、日本の警察は事件が実際に起こらなければ行動しない。この不合理を気づいているはずなのに対策ができない。事実、困って連絡しているのだから情報や助言等、救いの手を差し伸べてほしかった。国民の生命や社会の秩序などを守るためにある機関ではないのか。地方分権といわれるなかで、国の方針などまつ事なく県、市独自の制度作りも早急に考慮しなければならない。行政、保健所、民生委員等、あらゆる手を尽くし解決の糸口を掴んでほしかったと悔やまれる。泊まり込んででも、第三者が介入していれば暴力は、一時的に治まるし、又、本人も、じっくり向かい合ってくれる人がいる事で、親子共に、安心感がもてるのではないだろうか。暴力には病がある場合もあるから、病院にも相談し、どんな小さな契機でも良い。できる限りの知恵をしぼってほしい。そして何より親自身が、覚悟と勇気を持ち、世間体など気にしていたら子供の心はひらかないし、隠しているつもりでも周りは知っているものだ。それに、何故、隠さなければならないのか。人間の体は肉体と精神であり、

精神の病だけをひたすら隠す事はないし、隠す事が、悲劇の背景にないだろうか。私自身も団塊の世代となり、乏しい経験と浅知恵がそれなりに役立っていると実感する。故郷を「終の住処」と求めて10年の歳月を経て、病の娘にとって住んでよかったと思える地であってほしいと念願しているし、少しでも誰かの役にたてれば何より自分自身が嬉しいと思う。一度、故郷を離れて、文化も人も食物の素晴らしさを再確認しきり。失ってほしくないと心から切望する。先日、家族会で総会議事録が配布され、県への補助金の、時代錯誤も甚だしい金額に対し腹立たしい思いで愕然とした。又、作業所への通所者が増え、運営維持に苦慮している現状を聞いた。国や県に補助金の増額の見直しを求めていきたい。9月に行われる北信越ブロック家族会研修会を精神に障がいのある人達の福祉の充実と世間への病の正しい啓発推進に寄与できる会に微力ながら皆様と結束して取り組む所存です。

(この原稿は平成19年春に編集委員がお預かりしたものです。)



研究ご協力をお願い

目 的：医学は日々進歩していますが、多くの患者さんを苦しめている精神疾患の原因はまだよく分っていません。この疾患の原因を明らかにして、より効果のある治療法や予防法を見つけるために多くの研究が行われています。これまでの研究から、精神疾患の発症には養育環境、生活習慣など環境的な要素と、生まれながらの素質、気質など遺伝的な要素の両者が関係していると考えられています。生まれながらの素質・気質はゲノムと呼ばれるDNAに設計図があります。そこで、血液の中に含まれたゲノムDNA、メッセンジャーRNA、関連蛋白質を調べることで、精神疾患になりやすい素質・気質のもとがどこにあるかを研究することがこの研究の目的です。もしそれがわかれば、将来、精神疾患に対する有効な治療や予防法が見つけれられる可能性があります。

対 象：患者さんご本人とそこそ両親は必須です。ご同胞の協力も歓迎いたします。対象者の年齢の上限は原則75才とさせていただきますが、健康状態を見てそれ以下、それ以上の方も採血の可否について、個々に検討させて頂く場合があります。

採血方法：血液を通常の方法で10-30ml採血します。これは通常の検査採血と全く同じで、採血にともなう身体の危険性はほとんどありません。

調べる対象となる遺伝子は、現在明らかではありません。そこで、関係する可能性のある遺伝子など数多くの遺伝子を調べることになります。場合によっては、ご家族が今までにかかった病気について詳しい説明をお願いすることもあります。

家族会でまとまって協力する場合：各家族会の会長さんに申し出てください。

日程、場所については、後日、皆さんのご都合を聞いて決めたいと思います。

遠方の方は便利かと思えます。

個人で協力する場合：家族単位で都合のよい日に協力してくださる方は、お気軽に下記の三邊先生に電話をしてください。

金沢大学医学部神経科精神科 代表研究者・三邊教授 電話：076-265-2307（教授秘書室）



石家連事務局には、下記の図書があります。ご希望の方はご利用ください。

- | | |
|--|--|
| ○ 電話相談の考え方とその実践
村瀬嘉代子・津川律子 編 | ○ あしたへ架ける橋
やおき福祉会 編著 |
| ○ 障害者110番活動事例集
110番運営事業調査編集委員会 | ○ 心にとどくホームヘルプ
三田優子・平 直子・岡 伊織 編著 |
| ○ みんなで歩けば道になる - 全家連30年のあゆみ -
全家連 編著 | ○ ぜんかれん家族講座
・家族にできること、できないこと
・家族の生き方 ・親なき後に備える |
| ○ 日本収容所列島の六十年 - その後の十年 -
竹村堅次 著 | ○ 改正障害者基本法ガイドブック
日本身体障害者団体連合会 |
| ○ 広岡式 こころの病の治し方
広岡クリニック院長 広岡 著 | ○ 心と社会 (特集スピリチュアリティと現代のこころ)
日本精神衛生会 |
| ○ トンネルをぬけて
宮田広子 著 | ○ 精神障害のある人が働き続けるために
日本てんかん協会 |
| ○ 心の闇を抜けて
斉藤めぐみ 著 | ○ 福祉マップ
石川県保険医協会 |
| ○ ダンナがうつで死んじゃった
きむらひろみ 著 | |

編集後記

- ・単会の例会に、雨の日も雪の日にも、必ず出席の会員から電話がありました。
『みんなねっと2月号の「本の紹介」で、「辰村泰治の70年」 - 時代の波にほんろうされた一人の精神障害者 辰村泰治さんの本を求めたいのだが、どうすればよいか?』親が元気なうちに「何とかして〜」の思いが伝わってきました。(木村)
- ・今回、みんなねっと川崎理事長のお言葉を巻頭言に載せることが出来まして、うれしく思います。入院中心の医療から、地域医療へと移っている現在、『みんなねっとが精神に障がいのある人の地域生活支援体制づくりを大きな目標としていく』とのお言葉、大変心強く思います。ありがとうございました。(紺谷)